

氏名	田村 沙織 (たむら さおり)	
学位の種類	博士(看護学)	
学位授与番号	甲 第 23 号	
学位授与年月日	令和 3 年 3 月 3 日	
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当	
学位論文題名	化学療法を受けている大腸がん患者のレジリエンスと精神的健康、QOL との関係およびそれらに影響する要因 (Relation of Resilience to Mental Health and Quality of Life in Patients with Colorectal Cancer Undergoing Chemotherapy and Factors Influencing These Concepts)	
論文審査委員	(主) 教授	宮島 多映子
	教授	津田 泰宏
	教授	鈴木 久美

### 学位論文内容の要旨

#### 《緒言》

化学療法を受けている大腸がん患者は不安や抑うつが強く、不安や抑うつが強いと治療アドヒアランスや quality of life (QOL)の低下がもたらされる。そのため、患者の精神的健康の維持は治療の継続や QOL 維持のために重要である。近年、がん患者の精神的健康や QOL にはレジリエンスが関連することが示されている。今後、日本において大腸がんの罹患者数が増え、化学療法を受ける患者が増加すると予測されることから、化学療法を受けている大腸がん患者に効果的な援助を提供するためには、がん患者のレジリエンスにおける研究の動向を明らかにした上で、患者のレジリエンスと精神的健康、QOL との関係およびそれらに影響する要因を明らかにすることが必要である。

#### 《目的》

本研究の目的は、化学療法を受けている大腸がん患者のレジリエンスと精神的健康、QOL との関係およびそれらに影響する要因について明らかにすることとし、以下の三部で構成した。

第一部：成人がん患者のレジリエンスと精神的健康、QOL との関連およびレジリエンスに関連する要因を特定することを目的とした。

第二部：化学療法を受けている大腸がん患者のレジリエンス、精神的健康、QOL との関係およびそれらに影響する要因を明らかにすることを目的とした。

第三部：第二部の結果において「がんの転移」がレジリエンスの予測因子となっていたことから、化学療法を受けている転移大腸がん患者のレジリエンス、精神的健康、QOL との関係およびそれらに影響する要因を明らかにすることを目的とした。

#### 《対象と方法》

第一部の研究では、成人がん患者のレジリエンスと精神的健康、QOL との関連およびレジリエンスに関連する要因について対象文献を英論文 39 件としシステムティックレビューを行った。そして、Connor-Davidson resilience scale 25 で測定されたレジリエンス得点を用いてメタ分析を行った。第二部の研究では、外来で化学療法を受けている大腸がん患者を対象とした。質問紙は、Connor-Davidson resilience scale 25, Hospital Anxiety & Depression Scale, The MOS 12 Item Short-Form Health Survey と第一部で明らかになった個人要因、疾患関連要因で構成された。分析方法は、相関分析、*t*検定、共分散構造分析を適用した。第三部の研究では、第二部の結果において「がんの転移」がレジリエンスの予測因子となっていたことから、化学療法を受けている転移大腸がん患者のレジリエンス、精神的健康、QOL との関係およびそれらに影響する要因を明らかにした。分析対象者は第二部で調査した転移のある大腸がん患者 92 名とした。分析方法は、第二部と同様であった。

#### 《結果および考察》

第一研究では、がん患者のレジリエンスの平均点は 72.0 点であった。また、レジリエンス得点が高いと不安や抑うつ得点は低く、QOL 得点は高いことが示されていた。そして、レジリエンスに関連する要因として、年齢や家族構成、ソーシャルサポートなどの個人要因、転移の有無、病期、身体症状などの疾患関連要因、自己効力感や希望などの個人内的要因があげられた。これらの結果から、レジリエンスはがん患者の精神的健康や QOL の維持に重要な概念であり、これらの概念の関係とそれらに影響する要因を追求することが課題であることが示された。第二研究では、対象者は 121 名(94.0%)であった。対象者のレジリエンスと不安や抑うつ、QOL およびそれらの概念と関連する要因を用いて、因果モデルを作成した。このモデルの適合度は、GFI=.94, AGFI=.906, CFI=.997, RMSEA=.011 であった。レジリエンスは不安や抑うつに負の影響を及ぼし、QOL に正の影響を及ぼしていた。そして、抑うつは QOL に負の影響を及ぼしていた。さらに、レジリエンスには「がんの転移」、不安には「がんであることの自己開示」、集

中力の低下), 抑うつには「性別」, 「ソーシャルサポートの種類の数」, 「倦怠感」, QOL の身体的健康には「倦怠感」が影響し, それぞれの予測因子となっていた。これらの結果から, 転移のある大腸がん患者のレジリエンスと不安や抑うつ, QOL との関係およびそれらに関連する要因について詳細な分析を行うことが課題となった。第三部では, 因果モデルの適合度は, GFI =.927, AGFI =.885, CFI =1.000, RMSEA =.000 であった。レジリエンスは不安や抑うつに負の影響を及ぼし, 抑うつは QOL に負の影響を及ぼしていた。さらに, レジリエンスには「家族のサポート」, 不安には「がんであることの自己開示」, 抑うつには「家族との同居」および「親しい人からのサポート」, QOL の身体的健康には「がん疼痛」が影響し, それぞれの予測因子になっていた。

#### 《結論》

本研究の結果より, 化学療法を受けている大腸がん患者および転移大腸がん患者のレジリエンスは, 精神的健康や QOL の予測因子となることが示された。また, レジリエンス, 不安・抑うつ, QOL の予測因子となる要因を特定することができた。今後, これらの患者の精神的健康や QOL を維持するためには, レジリエンスを高める支援が重要である。したがって, 化学療法を受けている大腸がん患者のレジリエンスを高める介入の探求が必要である。

### 論文審査結果の要旨

本研究は精神的健康を損ねやすい化学療法を受けている大腸がん患者に着目し, レジリエンスと精神的健康, QOL 及び影響要因の関係を特定することを目的として, 3 つの研究で構成される。

第一研究では, 成人がん患者のレジリエンスと精神的健康, QOL および関連する要因を明らかにすることを目的として, 英論文 39 件のシステマティックレビューを行い, メタ分析を行った。その結果, 個人要因(年齢や家族構成, ソーシャルサポートなど), 疾患関連要因(転移の有無, 病期, 身体症状など), 個人内的要因(自己効力感や希望など)が関連していた。

第二研究では化学療法を受けている大腸がん患者 121 名, 第三研究では化学療法を受けている転移大腸がん患者 92 名を対象に, CD-RISC25, Hospital Anxiety & Depression Scale, The MOS 12 Item Short Form Health Survey と第一研究で明らかになった個人要因, 疾患関連要因で構成した質問紙調査を実施した。分析は, レジリエンスと精神的健康, QOL および関連する要因を, 相関分析, t 検定, 共分散構造分析を行い, 因果モデルを作成した。

第二研究での予測因子は, レジリエンスは「がんの転移」, 不安は「がんであることの自己開示」, 「集中力の低下」, 抑うつは「性別」, 「ソーシャルサポートの種類の数」, 「倦怠感」, QOL の身体的健康は「倦怠感」であった。適合度は, GFI =.940, AGFI =.906, CFI =.997, RMSEA =.011 であった。第三研究での予測因子は, レジリエンスは「家族のサポート」, 不安は「がんであることの自己開示」, 抑うつは「家族との同居」と「親しい人からのサポート」, QOL の身体的健康は「がん疼痛」であった。適合度は, GFI =.927, AGFI =.885, CFI =1.000, RMSEA =.000 であった。

本研究の独自性は, 化学療法を受けている大腸がん患者のレジリエンスと精神的健康, QOL との関係およびそれらに影響する要因について, 適合度の高い因果モデルを作成したことである。この成果は, 大腸がん患者と患者を取り巻く人々に予測的に介入する要因を示唆し, 多数の対象者に還元できる研究であると考えられる。

審査において, 1) 本研究の位置づけ, 2) 特定のがんに限定した理由, 3) 研究成果の対象者への還元方法について審議が行われ, 明確な回答が得られた。

以上により, 本論文は本学大学院学則第 11 条第 2 項に定めるところの博士(看護学)の学位を授与するに値するものと認める。

(主論文公表誌)

Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing(in press)